

1. 授業の概要(ねらい)

比較政治学Ⅱでは、比較政治学Ⅰにひき続き、西ヨーロッパの主要国の4国目としてイタリアを取り上げ、さらに、超国家組織であるEUについても取り上げる。さらに、ヨーロッパ政治を理解するために必要な基礎的な概念である、ナショナリズム、エスニシティ、クリーヴィッジ、多数決民主主義と合意形成民主主義、福祉国家、政党、宗教等々について解説をする。

2. 授業の到達目標

- ①外国の政治に対する関心をさらに深め、自分なりに政治について考え、それを発信することができるようになる。
- ②就職試験等に役立つであろう、政治に関する広範な知識を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

2回のテストで知識とその定着を確認する。第1回テストと第2回テストの合計点(90%)と、授業への参加姿勢及び貢献度(発言やミニ・アンケートへの回答など、10%)を総合して評価する。テストは必ず受験する必要がある。やむをえない事情で第1回テストを欠席する(あるいは欠席した)場合は、速やかに申し出て教員の指示を受けねばならない。第2回テスト欠席の場合は、追試を受験する。

学期末の第2回テストのみを受験しても合格点には達しないので、就職活動中の学生は特に注意すること。長期欠席者の単位取得は不可能である。

4. 教科書・参考文献

教科書

池谷知明・河崎健・加藤秀治郎編著 『新・西欧比較政治』 北樹出版

5. 準備学修の内容

授業後には、ノートを読み返し、さらにテキストも利用してノートを整理する。授業前には、ノートで前回の内容を確認する。

メディア(テレビ、新聞、雑誌、インターネット等)を通じて積極的に情報を収集し、現実の政治や社会状況を知るように努める。その際、一種類のメディアに偏らずに多くの情報に接する。

様々な本を読み、様々な意見や考え方を知る。

6. その他履修上の注意事項

自らの問題意識を持って授業に参加することを望む。

レジュメの配布等を行わないので、毎回出席してノートをとることが重要であることを理解して受講されたい。テストの日程は変動する場合がある。テストの日程、テスト欠席の場合の措置、その他の連絡事項は、授業内に発表するので、必ず出席をして確認すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業ガイダンス、イントロダクションー西ヨーロッパの変動
- 【第2回】 イタリア1ー戦後イタリアの政治
- 【第3回】 イタリア2ー執政府と議会
- 【第4回】 イタリア3ー政党と選挙制度、現代イタリア政治の課題
- 【第5回】 EU1ーEUの制度
- 【第6回】 EU2ーEUの課題
- 【第7回】 ナショナリズム、エスニシティ
- 【第8回】 クリーヴィッジ理論、第1回テスト(予定)
- 【第9回】 多数決民主主義と合意形成民主主義
- 【第10回】 福祉国家
- 【第11回】 政党
- 【第12回】 選挙制度と政党制
- 【第13回】 宗教と政治
- 【第14回】 国民投票
- 【第15回】 秋学期まとめ、第2回テスト(予定)